

令和5年度 学校評価 自己最終評価①

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

		評価項目	成果と課題	評価	改善策
教務部	教科指導	(1) 学習習慣の確立	①②タブレットを活用することで生徒の取り組む姿勢に変化があった。また個人差はあるが、朝学習の「マナトレ」を皆で取り組むことで、1限目の授業にスムーズに入れており、落ち着いて学習に取り組んでいる。各教科の授業で図書館を利用した際は、自ら学習に取り組んでいたようである。 ③係や教科では、読書の習慣化という点では取り組み不足だった。前年度より読書の習慣化が図られている生徒は増えてきた。 ④テスト前は大多数が家庭学習はやっているが、日常的には授業でやっている。各教科の授業で図書館を利用した際、課題を出すなどして、家庭学習の定着指導を図っていた。	3	①②自発的に学習に取り組むためには、学習の必要性を生徒自身が認識する必要があるが、タブレットを活用した授業を増やしたり、進路実現との関連性を意識させる具体的な方策(進路ガイダンスや教育相談など)をより充実させることが、長期的には学習活動への改善につながるといえる。 ③図書たよりや朝読書の期間を通し、読書への興味を高めるように取り組む。 ④資格取得を中心にして家庭学習の習慣づけをより意識させる。また、タブレットを利用する機会を増やす。
		(2) 基礎学力の定着と向上	①②義務教育学力未定着の生徒の実態をふまえた授業の展開がなされているが、上位生徒への指導は個別にならざる得ない状況がある。 ③各教科・学科で生徒の学習状況の情報は共有できている。タブレットの研修を3回行い、教員間で、情報交換は概ね図られていたようである。 ④生徒・職員のリクエストをきいて本を購入するなど、興味関心を高める取り組みをしている。	3	①②普段の授業だけでなくタブレットを使用し、生徒の理解度に合わせた授業展開をしていく。 ③教員同士の情報交換を充実させた上に、生徒へのフィードバックを行う。学年会・生徒への教育相談等を利用して、個々の学習状況への具体的なアドバイスをする。 ④昨年同様、生徒への読書の働きかけに加え、担任や教科担当にも図書館を利用していただく機会を増やしていく。

令和5年度 学校評価 自己最終評価②

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

		評価項目	成果と課題	評価	改善策
生徒指導部	生徒指導	(3) 生徒との信頼関係の構築	①生徒指導部としては概ね達成できた。係会で情報共有を行い、必要に応じて係間の情報交換もできた。 ②特に1年生を中心に困難課題対応的生徒指導に迫われ、係としての発達支援的生徒指導への取り組みが十分でなかった。 ③各行事ごとに、生徒会や3年生が中心となって運営できるよう、生徒と職員で協力する様子が見られた。 ④生活交通係が中心となって全職員で努力していた。職員の指導に対する生徒の態度も良好だった。	3	①②生徒の様子を確認し理解するために、数年前からほぼ全ての職員が出工タイムで各クラスに赴いている。今後は出工タイムでのマナトレへの取組に積極的に支援することで、少しでも生徒の「できた」「わかった」を育てていきたい。 ④小さなことも見逃さず、粘り強い指導を全職員で実践することを常に堪忍していく必要がある。
		(4) 基本的生活習慣の確立と集団生活の規律遵守	①特に1年生の問題行動が多かったが、担任団を中心に生活習慣やマナー等の指導を繰り返しおこなうことで徐々に落ち着いてきた。 ②気持ちよく挨拶できる生徒は多い。 ③全職員で声掛けや見届けをする雰囲気はできつつあると思う。服装や時間など基準が分かりやすい指導は声掛けなどもしやすいが、髪型等の基準が曖昧な指導は職員も苦勞する様子がうかがえた。	3	①今年の1年生のようにクラスでの対応が難しい場合に、学年団や学校全体での連携がもっと必要になってくる。連携しやすい環境づくりも今後考えないといけない。 ②集会係と連携して全体集合等を利用して指導を徹底したい。 ③今年度から具体的に始めた多遅刻者に対する指導は、今後その成果をみながら来年度以降改善していきたい。
		(5) 交通安全指導の徹底と事故・違反の未然防止	①②大きな事故や違反が起きなかったことは交通安全指導が概ね達成できたと考える。1年生で無免許運転1件、自動二輪免許の無断取得1件の問題行動があったことについては残念であり、他の生徒への広がりも今後警戒する必要がある。	3	①②常日頃から気を抜けない指導なので、係間の情報共有はもちろん、生徒に対しての適切な指導を心掛けていきたい。
		(6) 保護者・地域との連携	①HPに「生徒心得」を掲載した。教頭先生を中心にSNSでの発信を始めた。 ②出水特別支援学校との交流会など地域の関係機関と情報交換を行った。 ③校外ボランティア募集も昨年よりは増え、積極的に応募する生徒も見受けられた。	3	①年度末に校則に関するアンケートをおこない、来年度に引き継ぎたい。 ②③生徒の活躍を生徒自身が発信できる環境を教師側が手助けできたら、地域との交流も盛んになるのではと思う。教務や進路とも協力し合って学校全体で取り組みたい。

令和5年度 学校評価 自己最終評価③

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

		評価項目	成果と課題	評価	改善策
生徒指導部	生徒指導	(7) 不登校・いじめ問題への支援体制	①学校適応対策委員会やスクールカウンセリング、別室登校等の体制を整備することで組織的に支援できている。 ②生徒一人ひとりの特性理解に努め、生活交通係会、HR係や担任団で情報共有をしている。 ③些細な問題行動やいざこざ等が発生したとき、全校、学年、クラス、個人と状況に応じてしかるべき立場の教師が指導してきた。	4	①②生徒一人一人に対する支援が行き届くよう、各種委員会や各係の連携をはじめ、学校全体の協力体制をもっと強くしていきたい。 ③発達支援的生徒指導にもっと工夫して取り組むことで、安心安全な環境づくりを目指したい。
	進路指導部	(8) 進路意識の高揚	・進路指導室前に、学校説明会やオープンキャンパスや公務員の情報を掲示しながら、情報提供を行った。ただ、1、2年生に対しての進路活動がもう少し工夫が必要のように感じた。 ・進路指導部と3年担任団との連携もスムーズにでき、進路に関する話題を色々な場面で取り上げながら、三者面談や教育相談などで、個別指導の充実を図った。更に、情報発信に努めたい。	3	・生徒理解や進路指導に関するスキルを向上させる。 ・3年間を通して職業観を向上させるような指導を計画し実施する。 ・進路情報をより共有化(電子化)できるようにする。
進路指導部	進路指導	(9) 職業観・勤労観の育成	・インターンシップについては実施できた。 ・学年別の合同LHRや1年生への職業意識の向上のためワークグループ、2・3年生対象の就職・進学合同説明会、3年生対象の面接指導ガイダンスなどを計画、実施した。3学期には、1・2年生を対象とした県内企業説明会、市内企業説明会を計画している。 ・就職した生徒の早期離職を減らすことができるような対策を考えたいと思う。	4	・2学年と連携しながらインターンシップの協力をしていく。 ・ガイダンスの内容・回数・実施方法を綿密に検討する。 ・職業観や進路選択に対して、3年生になってからではなく、入学してからの3年間を通して指導していけるようにする。
	進路指導	(10) 進路実現	・3年担任を中心に全職員の協力をもらい、SPI・一般常識試験対策や面接指導を行った。特に就職を希望する生徒に対しては、進路指導部による評価面接を2回実施し、その際にも個別面談を行った。 ・今年度は県内・県外ともに職場訪問が実施でき、生徒の希望に応じて会社へ訪問し情報交換をすることができた。	4	・SPI・一般常識試験対策をどのようにして学校として取り組むか検討する。 ・パソコンなどを利用して入社試験を実施する会社も出てき始めているので、それに向けての対応も準備する。 ・ここ数年の中では最大の求人数であり、生徒の求める企業とのマッチングのために、より適切な面談等が必要。

		・就職対策協議への参加や職業安定所との連絡を取りながら、情報交換等を適宜行い、協力体制を整えている。	・あまりにも多くの企業があるためどのように生徒や保護者に情報をわたすに工夫が必要と考えられる。
--	--	--	---

令和5年度 学校評価 自己最終評価④

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

		評価項目	成果と課題	評価	改善策
保健部	保健指導	(11) 生徒の健康管理	①健康診断は日程変更もなく実施することができた。 受診率は昨年度とほぼ変わらず。 ②場面に応じたマスクの着用や手洗い、消毒、換気、検温などが日常の中で実践された。	3	①受診率の向上には、受診確認だけではなくHRや部活動での呼びかけによる効果があると思う。引き続き確認や呼びかけ行っていきたい。 ②SHRでの検温やチェックシートの記入など健康観察簿の充実をはかった。夏にコロナウイルスの罹患者が増えた時期や、インフルエンザの罹患者も出たが、学校内で感染拡大をすることもなかった。引き続き、感染対策を継続していきたい。
		(12) 生徒の体力づくり	積極的に運動に取り組む生徒が多い反面、体力テストの結果は県平均を下回る種目がほとんどである。	3	運動部活動への加入推進と体育授業における体力向上への取組を工夫し、継続していく。
		(13) 安心安全な環境づくり	①安全点検簿の準備を行い毎月行った。 ②避難訓練は全職員の協力でスムーズに行うことができた。	3	①安全点検後の取り組みを事務室ともっと連携していく必要がある。 ②昨年度同様に新型コロナの影響で、消防署から避難訓練の指導をもらえていないので、来年度以降状況をみてお願いしていきたい。
工業科	工業教育	(14) 教科指導の充実	①進路を念頭に、授業との関連を図り、取り組むことができた。評価については今後も見直していく。 ②専門の特性を生かし、知識・技術の充実が図られた。	3	・ 早めの情報提供と進路先の研究をおこない、専門科目の知識の習得や資格取得にむけて働きかける。 ・ 評価について各科見直しを行い、改善していく。
		(15) ものづくり教育	①座学と実習・課題研究を関連付けて、ものづくりへの興味・関心を引き出すことができた。 ②ものづくりの継続的な指導や、技術の伝承がなされていた。	4	・ 実習や課題研究などでは、ものづくりに対する興味・関心を持って取り組んでくれるが、座学との関連づけでは積極性が乏しく、総合的に学習をしていく。 ・ 放課後やイベント作品を利用して、継続的に技術・知識の習得に努めた。

令和5年度 学校評価 自己最終評価⑤

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

		評価項目	成果と課題	評価	改善策
工業科	工業教育	(16) 資格取得への取り組み	①資格試験の情報提供を行い、適宜補習を行うことが出来た。 ②資格への興味・関心に差があり、取り組みが薄くなってしまった。	3	・資格取得者数が減ってきているので、進路先との関連づけやものづくりへの興味・関心を引く手立てが、今まで以上に必要である。
		(17) 各種行事への参加	①国体モニュメントや近くの学校などへの奉仕活動を通じて、つくる喜びを体現していた。 ②産業祭・工作教室・専門高校フェスタへの参加で、工業の取り組みを知らせることが出来た。	3	・コロナ禍から元に戻りつつあり、イベントの参加、近隣学校への奉仕活動を増やし、「生きる力」を育む機会や地域への取り組み発信を増やしていく。
関連分野	全般	(18) 社会に貢献する人材の育成	①あらゆる活動で、徹底した学習指導や生徒指導を行うことができた。さらなる主体性の向上が必要。 ②礼節は好調であり、遅刻者数も昨年度より激減してきた。来年度も効果的な指導が必要である。 ③ものづくりや資格取得には積極的に取り組んでいた。マナトレなどの効果を分析する必要がある。 ④将来を見据えた、個別の指導を展開することができた。自己管理能力を身に付けさせることが急務。 ⑤統一した取組がなく、指導と評価の一体化の効果を発揮するための手立ては喫緊の課題でもある。	3	①生徒たちが状況をよく見て、思考・判断して、主体的に行動できる適切な指導を行う。 ②あらゆる場面で徹底させるところを、教師が見逃さずに生徒に接する機会を大切にする。 ③マナトレの取組が、基礎学力の定着に繋がっているのか検証や分析、実施の検討を行う。 ④生徒個別の対応ができるように、組織が個に適した指導の確立のための情報共有を行う。 ⑤指導と評価のPDCAサイクルを確立させ、ここに応じた指導が可能なシステムを検討する。
		(19) 教育環境の整備	①ICT活用のための研修も増やし、タブレットを活用した授業が増えており、授業の質も高まった。 ②清掃や環境整備に関する意識の涵養が今年度は徐々に向上されてきた。さらなる徹底が必要。 ③毎月の安全点検は確実に行うことができた。生徒に施設の正しい管理の意識を持たせる指導が必要。	3	①タブレットを活用する意識を向上するためにも、業務改善として使う仕組みを検討する。 ②校内の教育環境を整える意識を生徒に醸成させるためにも、清掃作業の質を上げる。 ③小さなところや見えないところまで目を配り、危機管理の意識をもって、確認等を行う。
		(20) 情報セキュリティポリシーの遵守	①文書の割振は的確に行われ、各担当者で文書に関する整理や管理、保管は徹底されている。 ②生徒情報等は校務支援システムで管理し、紙媒体でも鍵のかかる箇所適切に保管している。 ③情報漏洩はないが、ウイルスの侵入事例が数件あったため、セキュリティ対策の意識向上が必要。	3	①可能な限り、文書管理ラベルをファイルに貼るようにして、文書を適切に保管する。 ②生徒に関する情報が掲載された紙媒体はできるだけ配付しないように工夫する。 ③校務用パソコンは授業や教育のみに活用されることを改めて意識することが肝要である。

		①県内での不祥事の事例や法改正をもとに職員への研修や服務規律の厳正確保の指導ができた。 ②時間外勤務が月45時間を超えるケースもあり，さらに効率の良い勤務管理を検討する必要がある。 ③職員研修も多く実施し，長期休業中やセンター主催の研修に積極的に参加していた。 ④授業参観の計画は適切に行われたが，参観する人数や回数が充分と言えない結果ではある。	3	①毎月のメッセージや標語等も含めて，常に服務規律と向き合うような取組が必要である。 ②週に一度の定時退庁日を推進して，業務改善を促すなど，再度フォローアップする。 ③教育センターの短期研修への参加増進を早いうちから呼びかけ，意識の向上を目指す。 ④授業の質を高めるために，生徒が授業の評価をする計画も検討してもよい。
--	--	---	---	--